

人権研修
入門資料

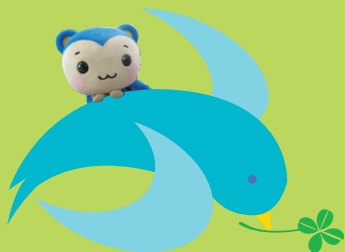
モモマルくん

と

考えよう!

～仲間はずれのない未来のために～

3



モモマルくん

北九州市人権の約束事運動
マスコットキャラクター

はじめに

「モモマルくんと考えよう」シリーズは本作で3作目です。

第1作目では人権問題に出会った時、傍観者や無関心の立場でいては差別する側となってしまうかねないことを、そして第2作目では同和問題の解決を阻む要因の一つとなっている「寝た子を起こすな論」の間違いを描いてきました。

その同和問題とは、特定の地域の出身であることを理由に、結婚や就職などにおいて不利な扱いや差別的言動を受けるといふ、日本固有の重大で深刻な人権問題であり、国民全体で解決すべき課題です。

シリーズ完結編となる本作は、モモマルくんが前作で出会った“仲間はずれ”の歴史について、“森の図書館”で学習するシーンから始まります。

この“仲間はずれ”の歴史は、日本社会における「同和問題」を意識して描いています。同和問題が、なぜ、今日まで解決されずに残っているのか、また、私たちはその解決に向けてどうすべきなのかを、モモマルくんと一緒に考えてみてください。

あらすじ

モモマルくんと考えよう!2

リスちゃんが、森に伝わる“こわい言い伝え”のせいで仲間はずれにされ始めていることを知ったモモマルくん。一度は“こわい言い伝え”を知らなければリスちゃんを避けたりしなかったのに…と考えます。

しかし、森のおとなたちの誰もが言い伝えの真偽にあやふやなことが分かり、モモマルくんは“こわい言い伝え”を誰にも話さないと心に決めます。その後、言い伝えが何の根拠もないことだと分かり安心するモモマルくんですが、「知らないことほど恐ろしいものはない」というふくろうじいさんの言葉に、自身を省みます。



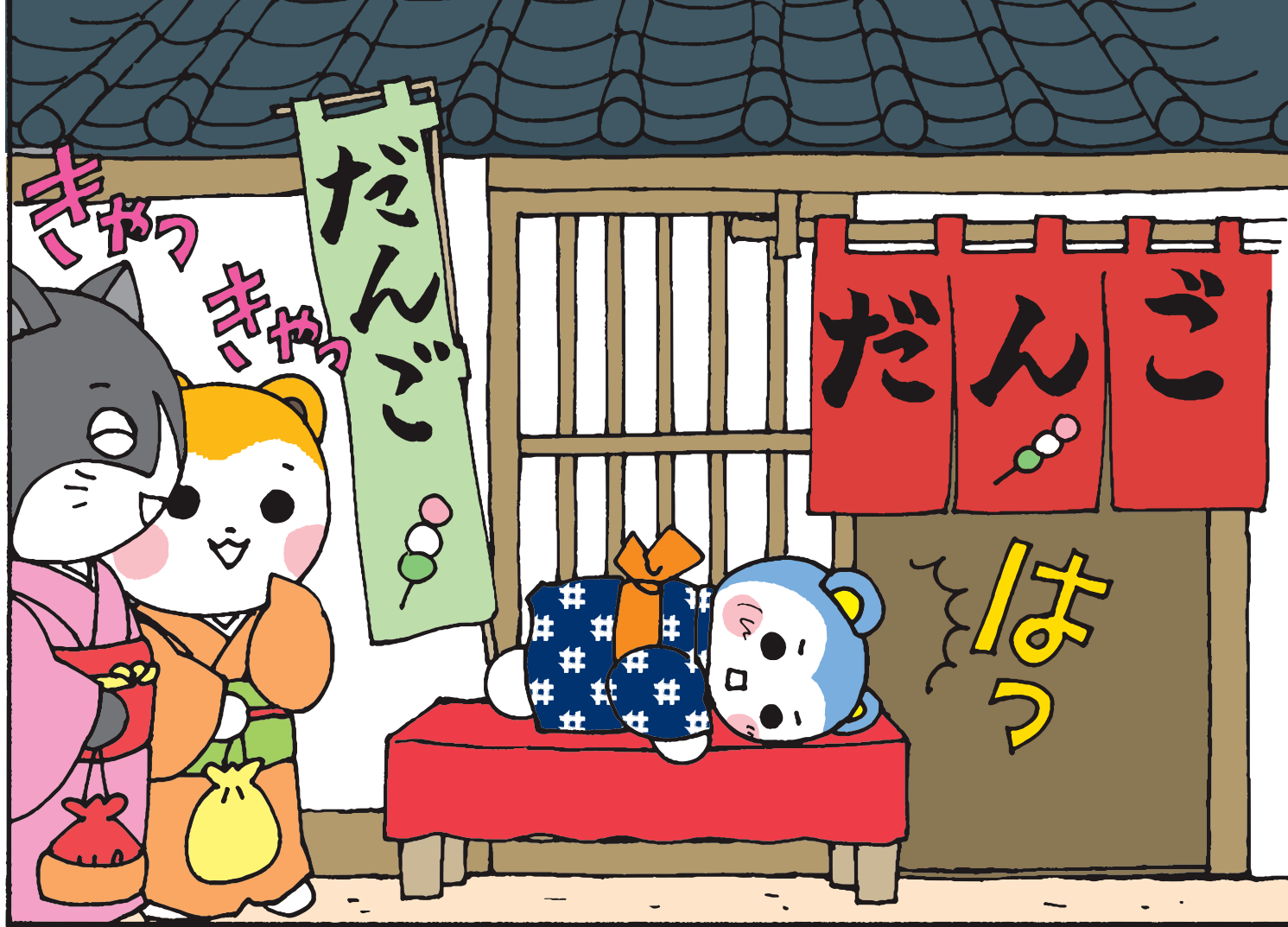
北九州市人権の約束事運動
マスコットキャラクター

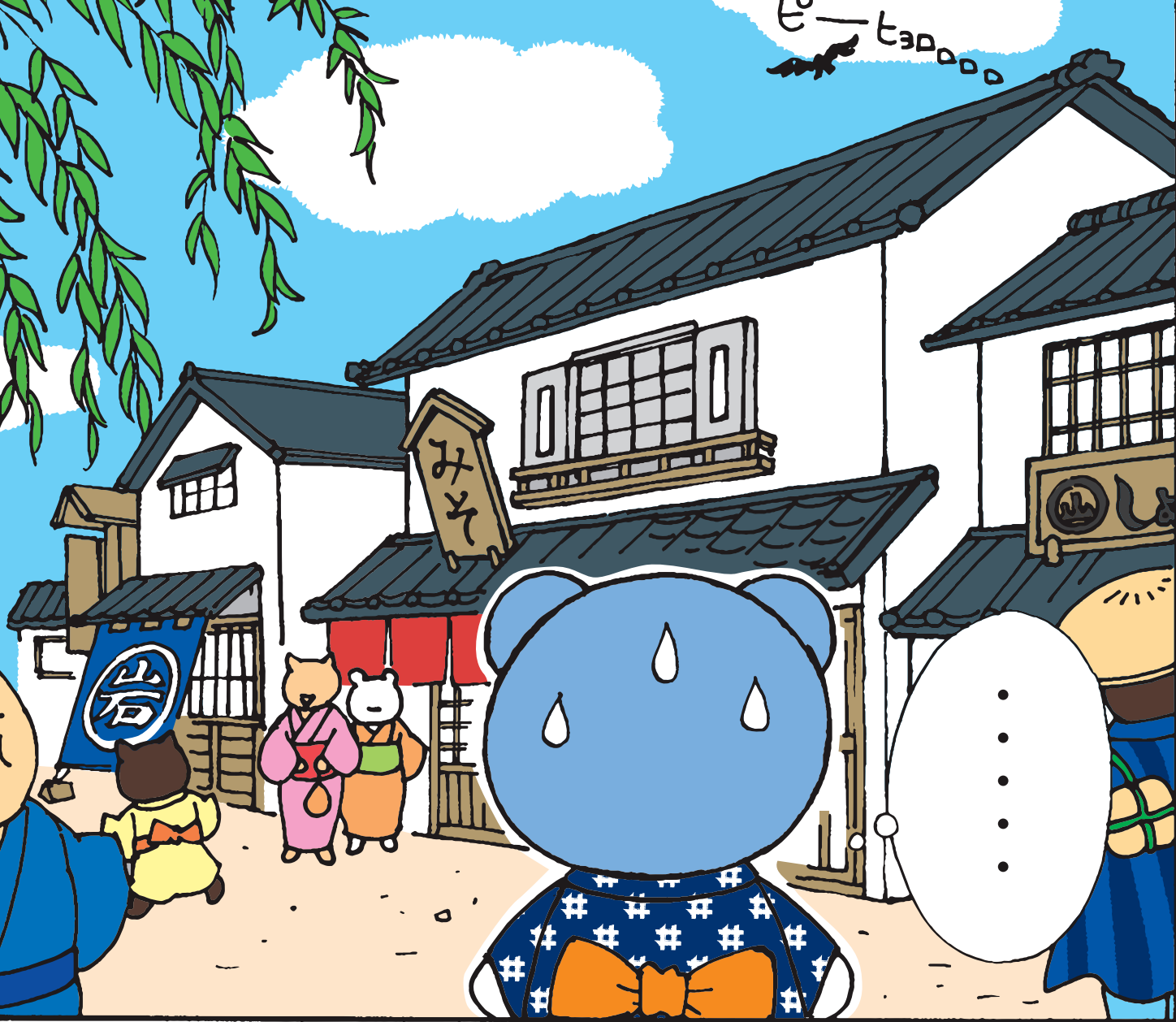
モモマルくん

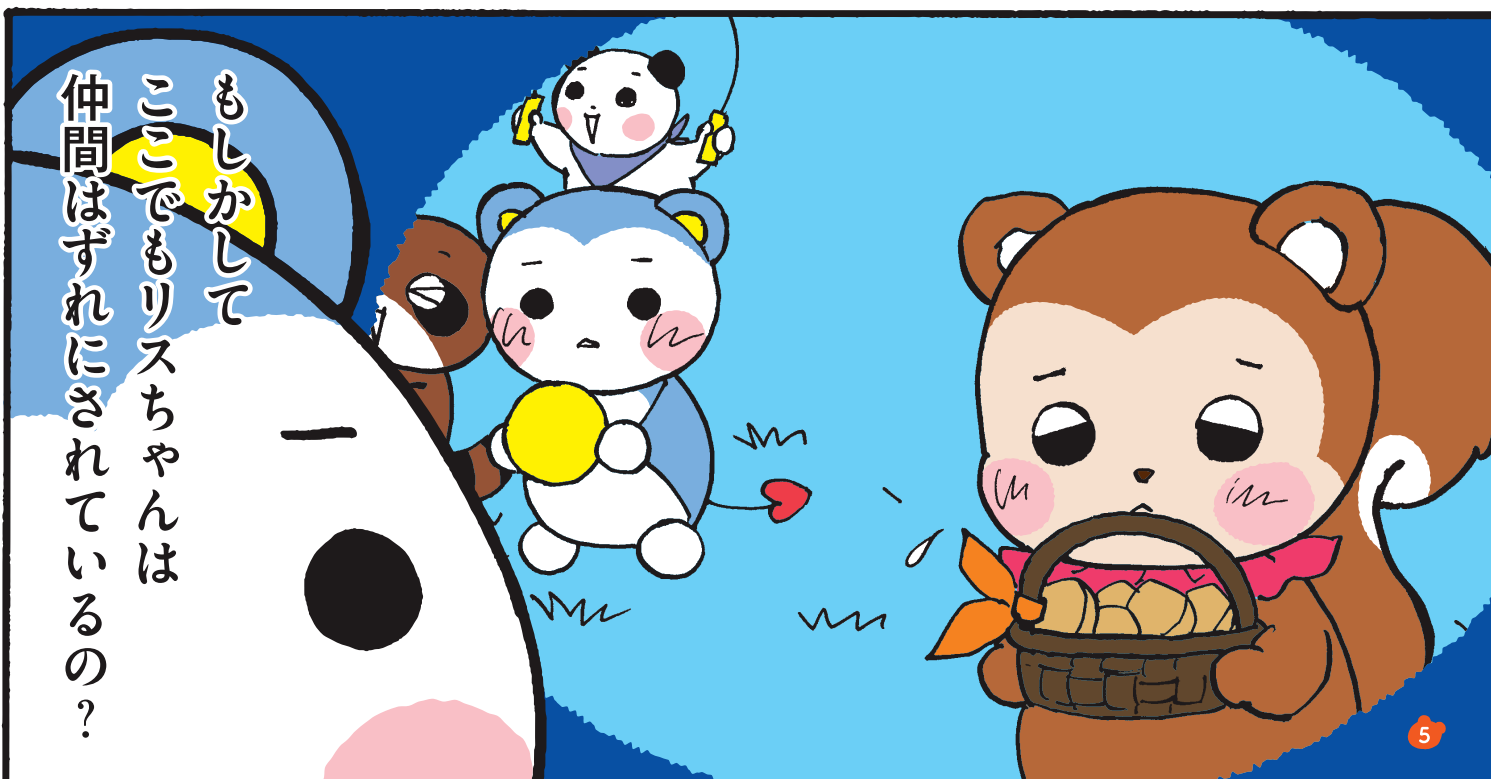
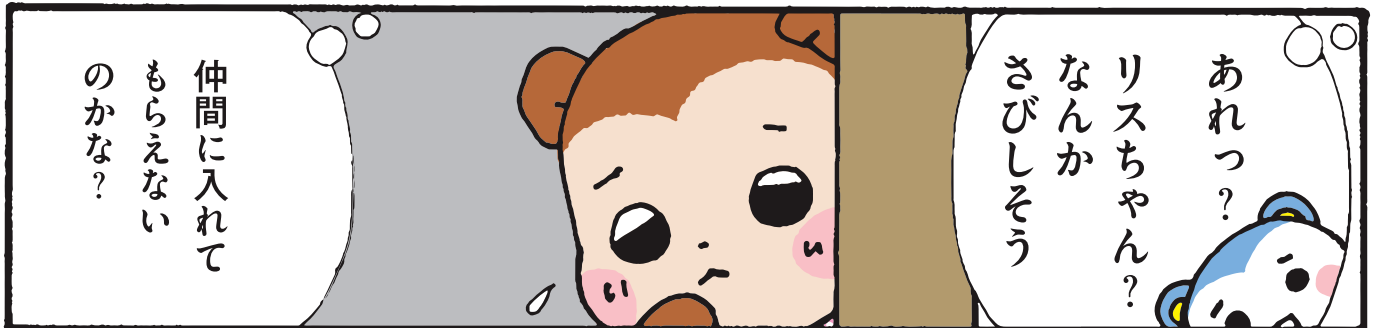
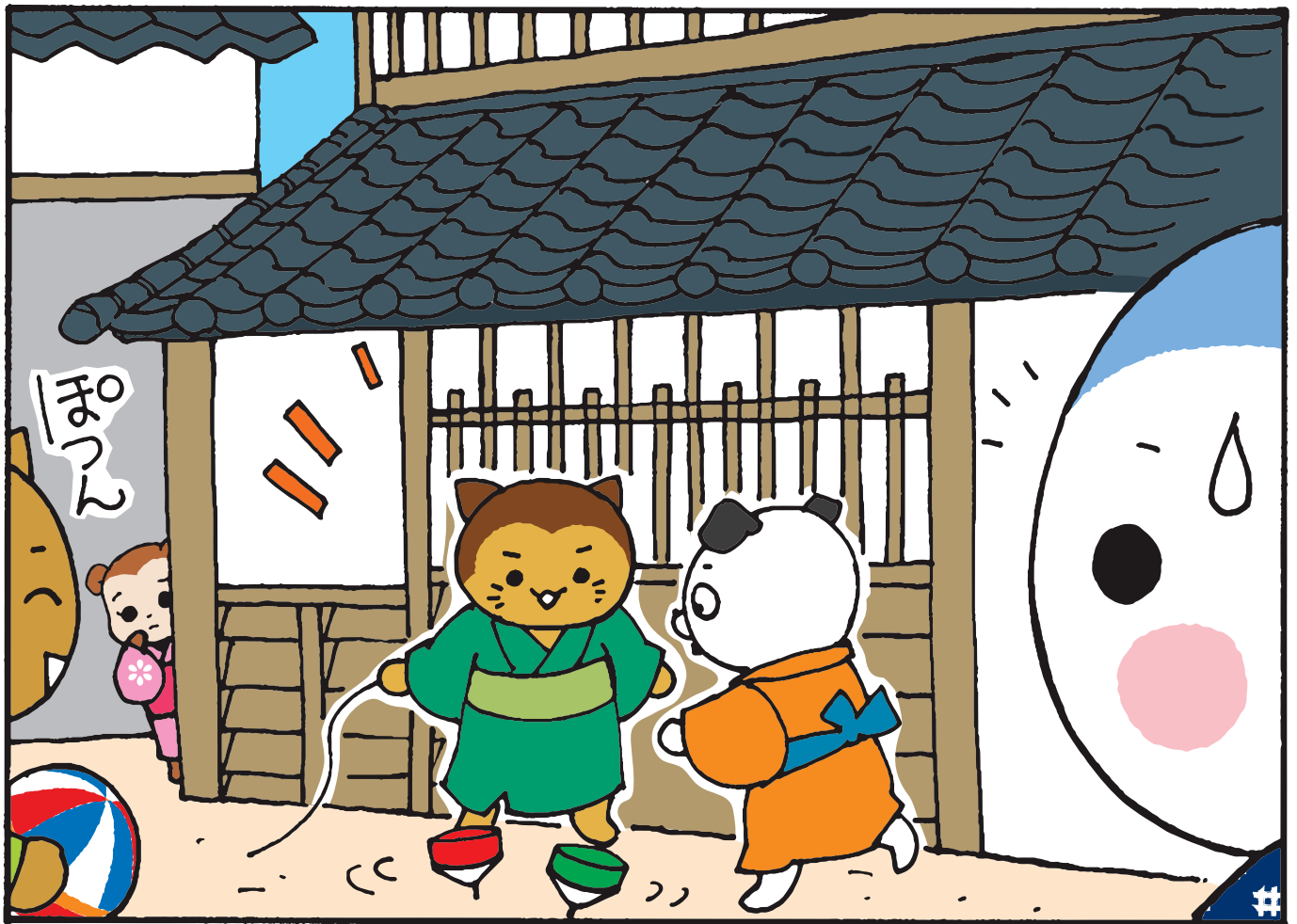
モモマルくん紹介

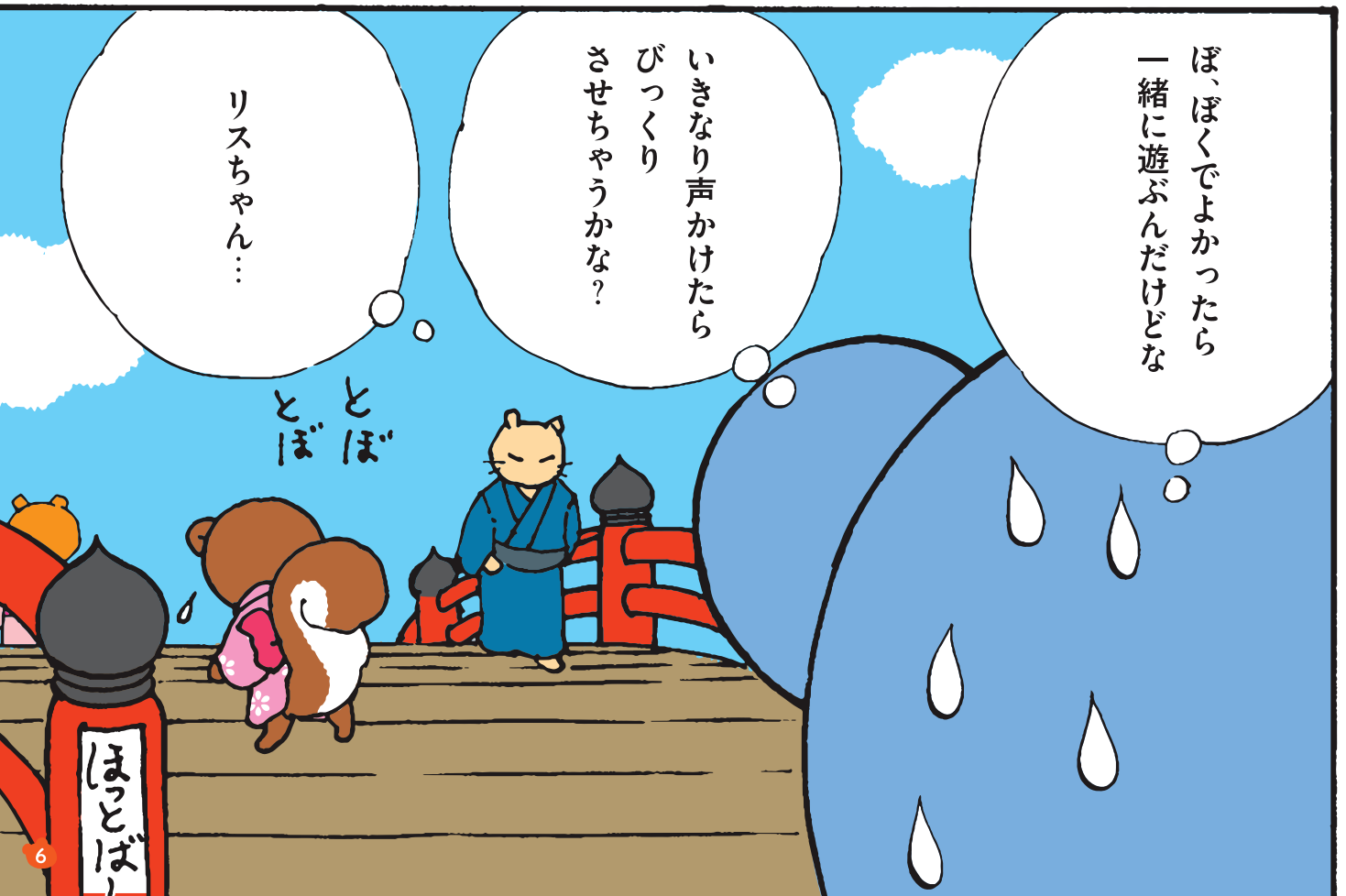
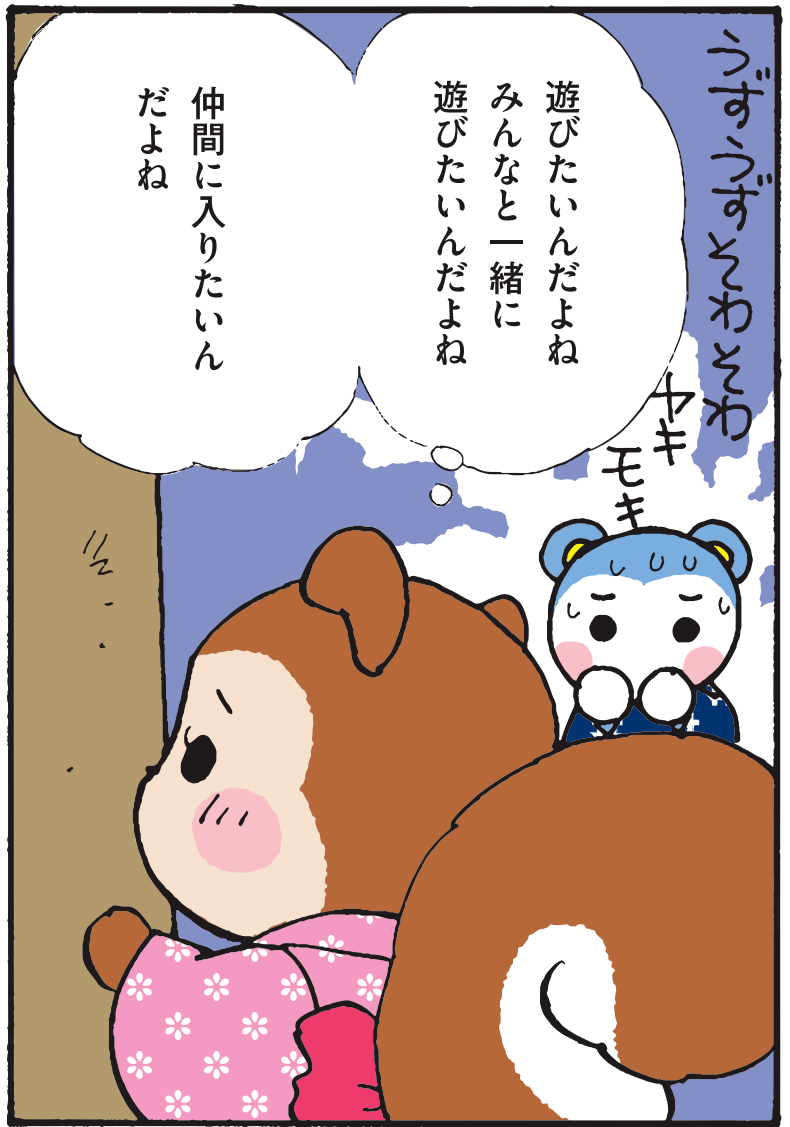
ぼくはモモマルくん。好奇心いっぱい、ともだちいっぱいの、モモンガの男の子だよ!(人間でいうと9才ぐらい?)北九州市をもっともっと温かい心に満ちたまちにするために、毎日市内を飛び回ってるんだ。チャームポイントは、しっぽのハート。人権の大切さを伝えたり、みんなといっしょに考えたりすることがぼくのお仕事なんだよ!これからもよろしくね☆

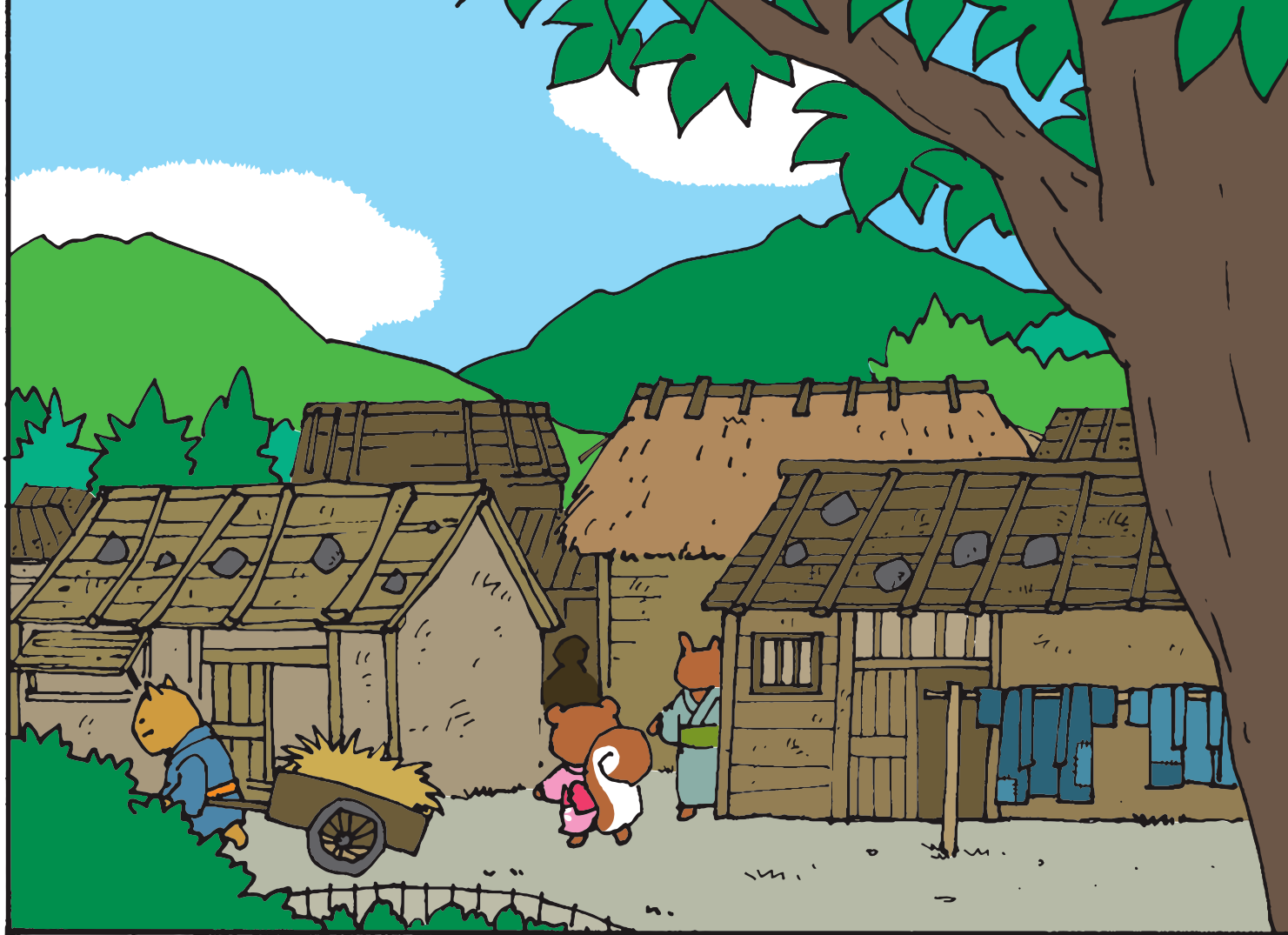


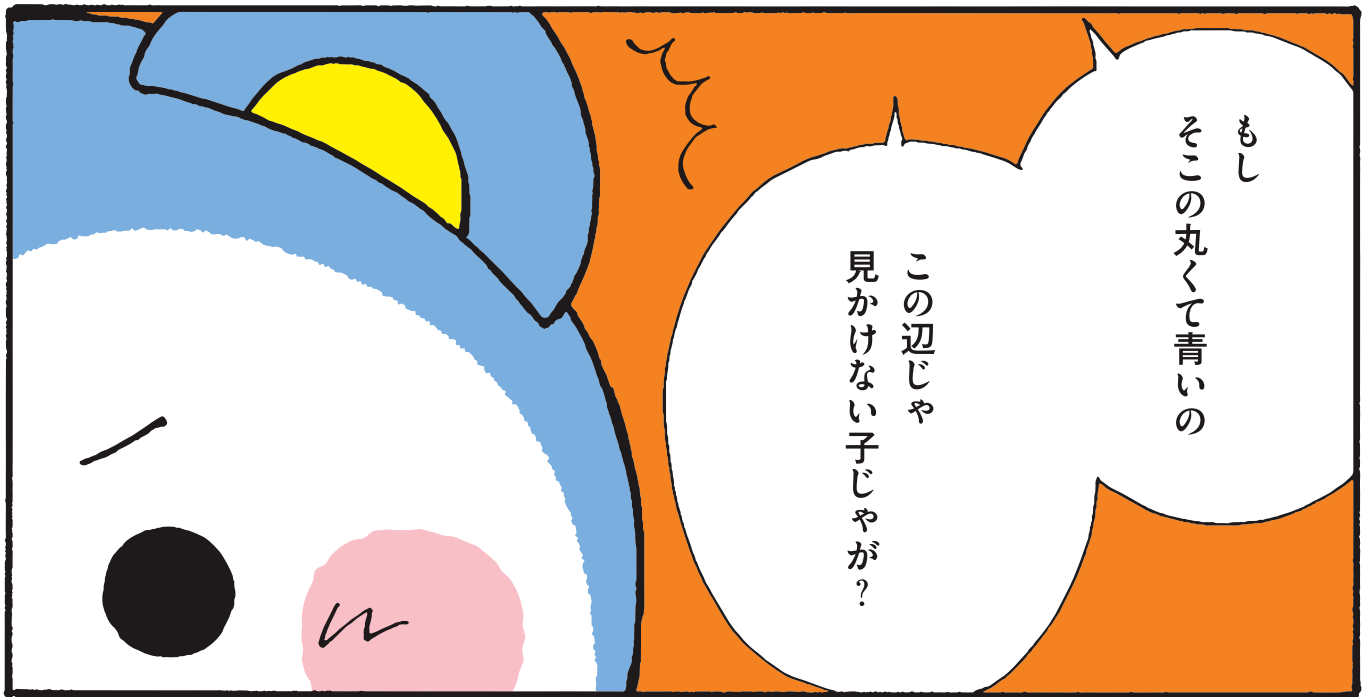














信じてもらえないかも
しれないけど
ぼく

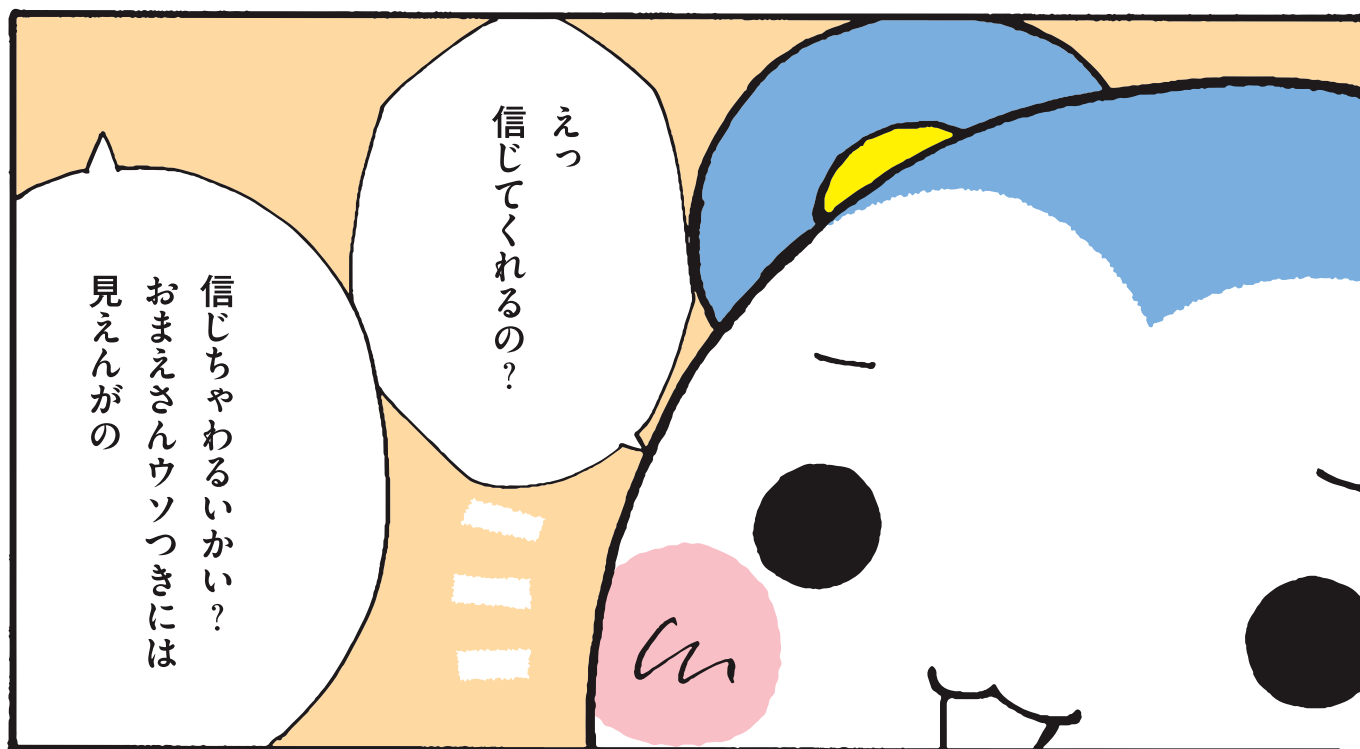
未来の世界から
この町に来てしまった
みたいなんです

ホホー
それは大変じゃの



あの…

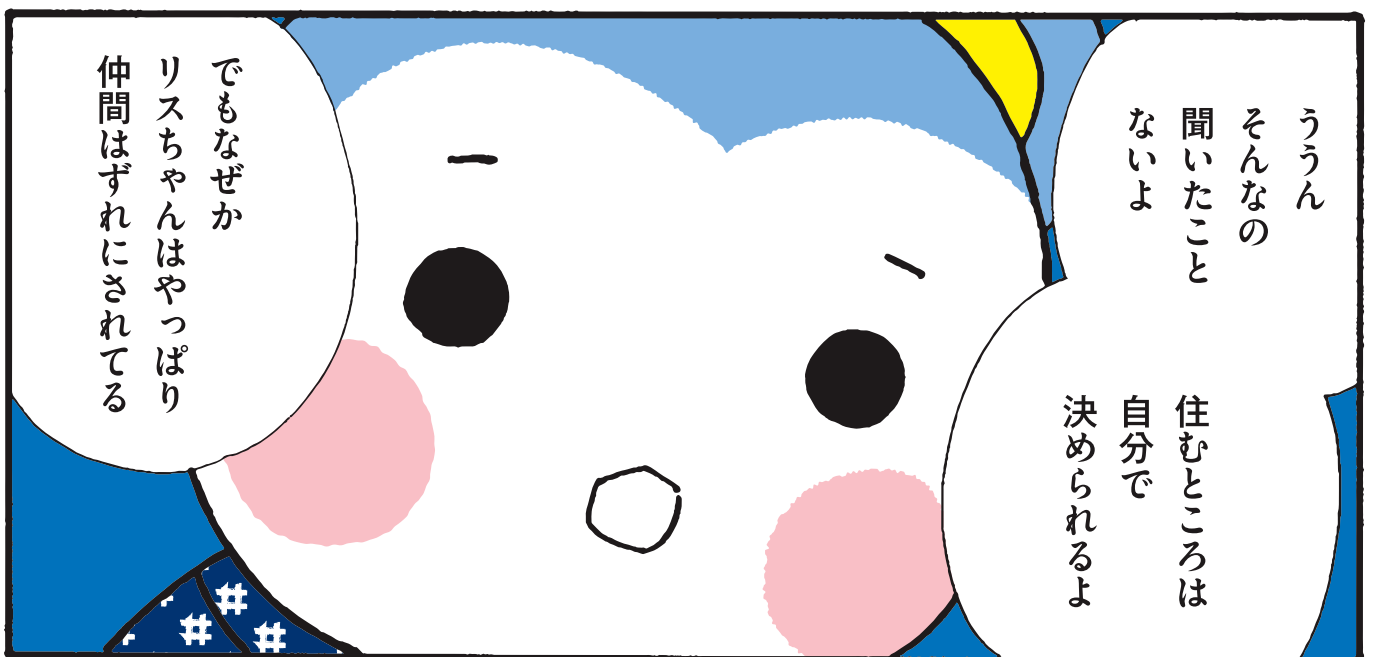
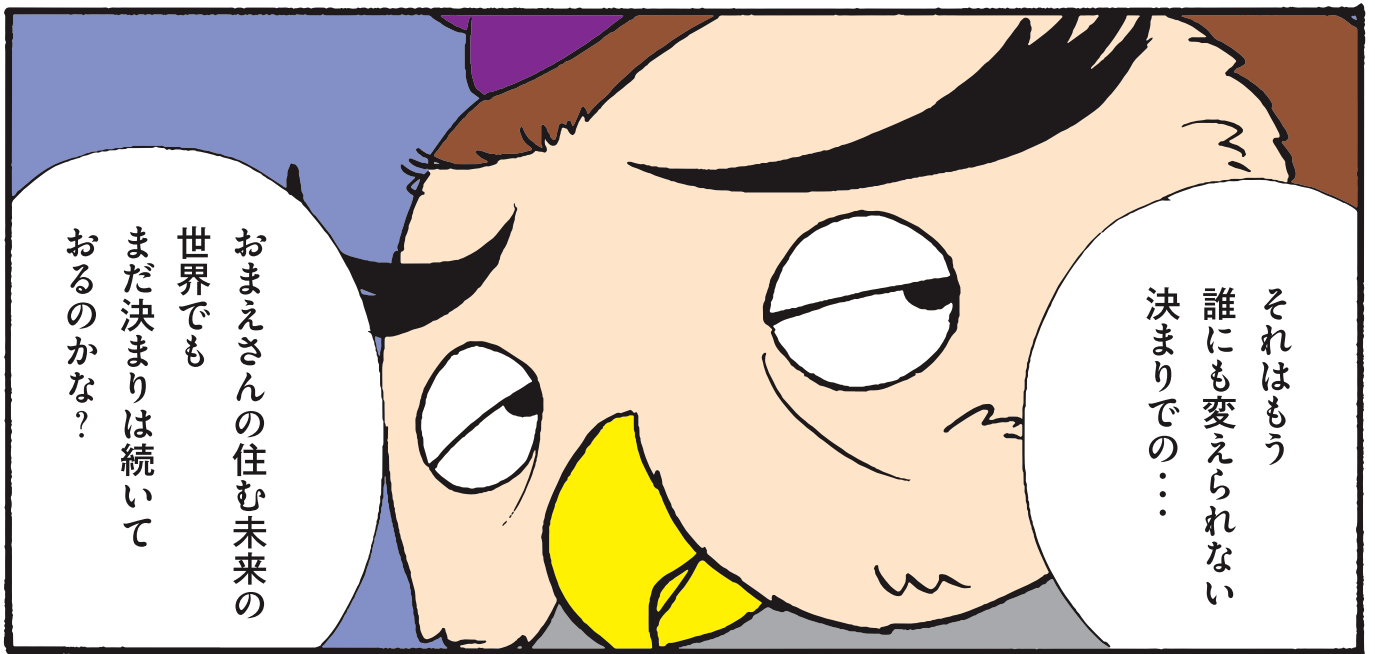
えつとぼく…

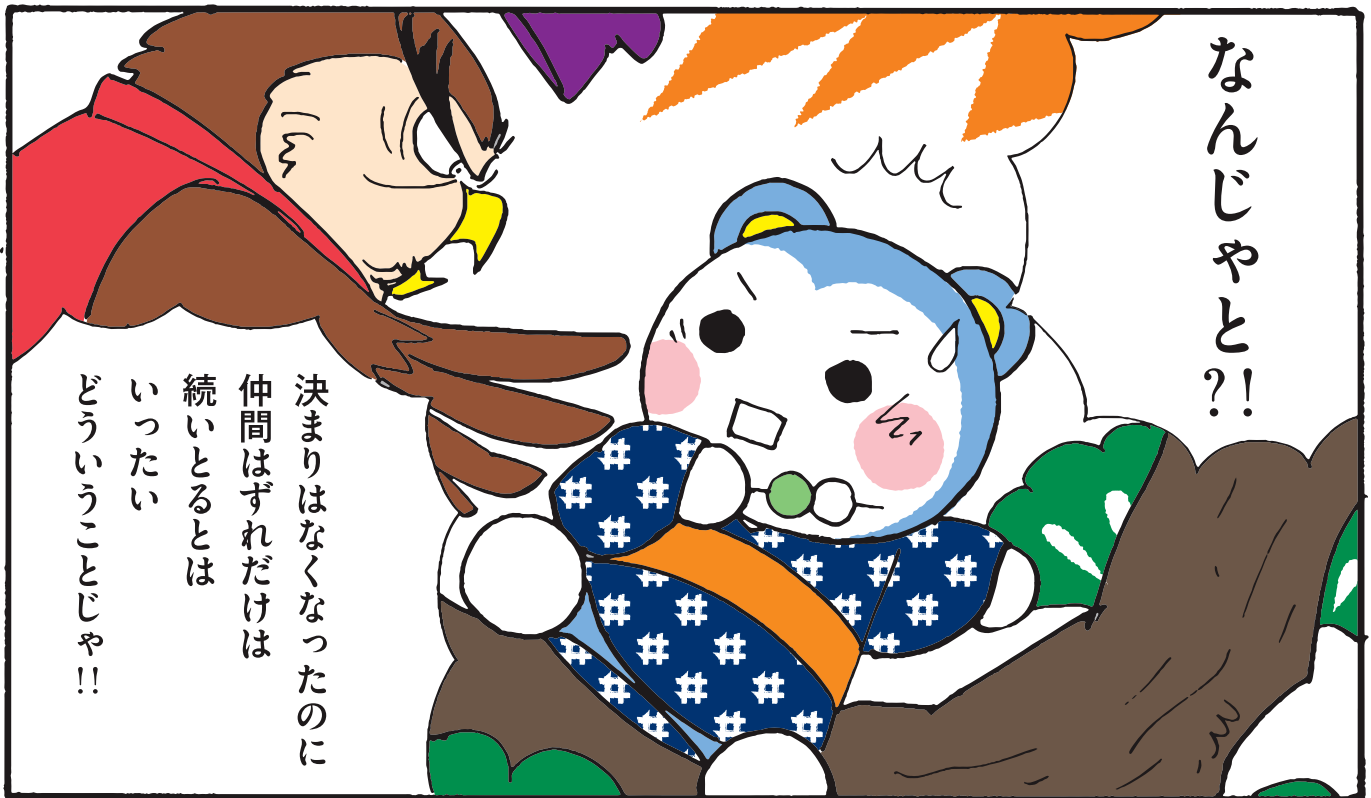


えつ
信じてくれるの？

信じちゃわるいかい？
おまえさんウソつきには
見えんがの





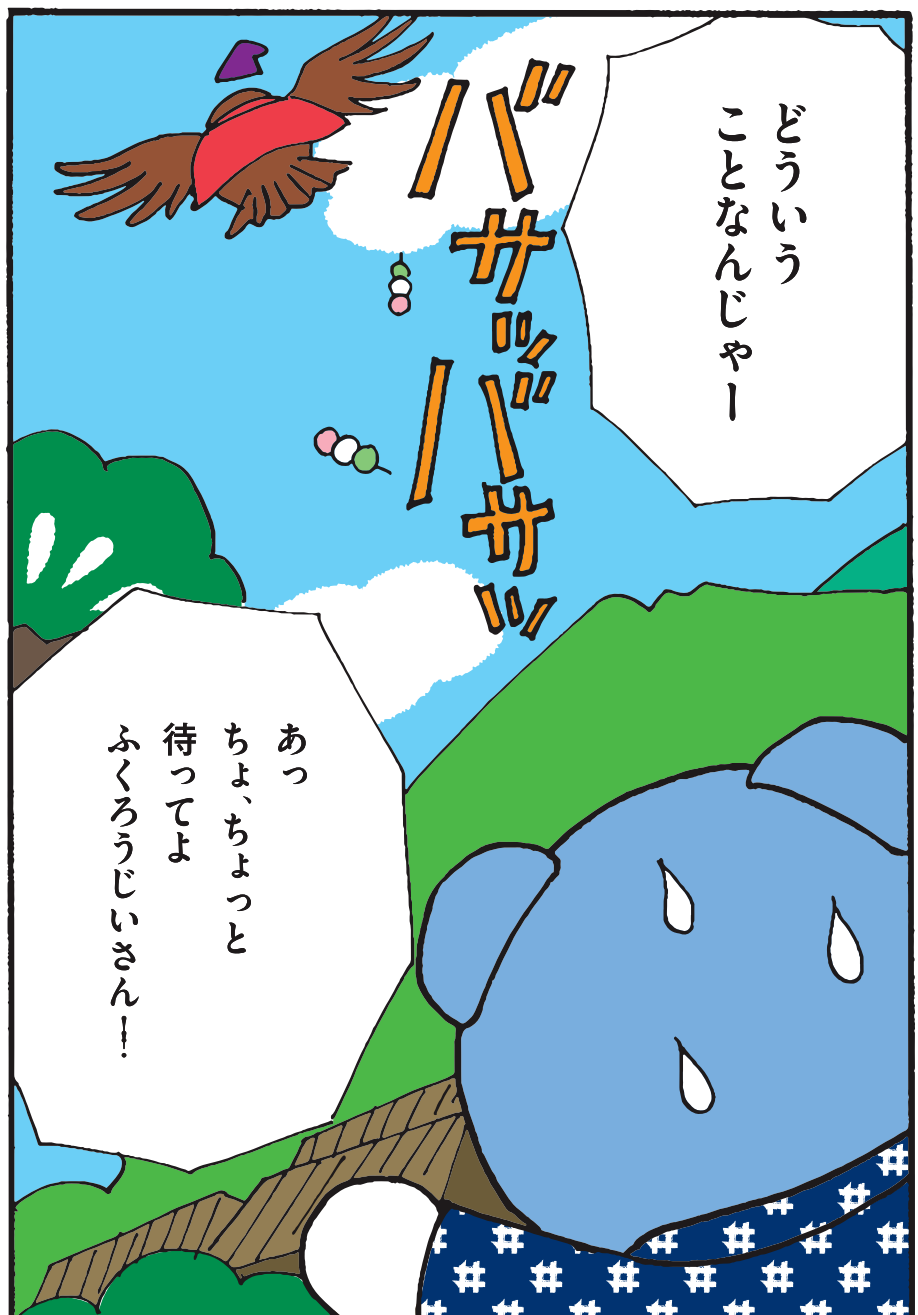


なんじゃと?!

決まりはなくなったのに
仲間はずれだけは
続いとるとは
いったい
どういうことじゃ!!

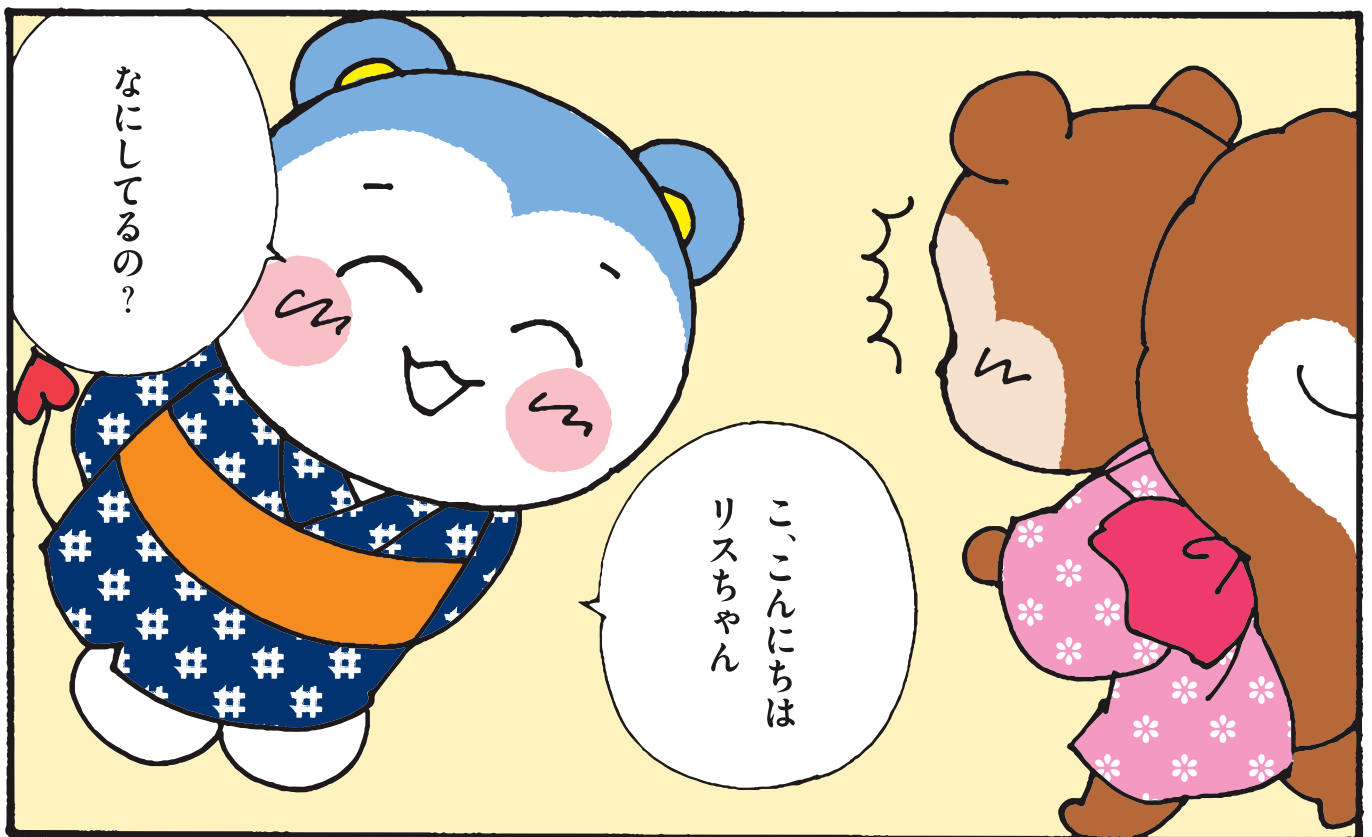


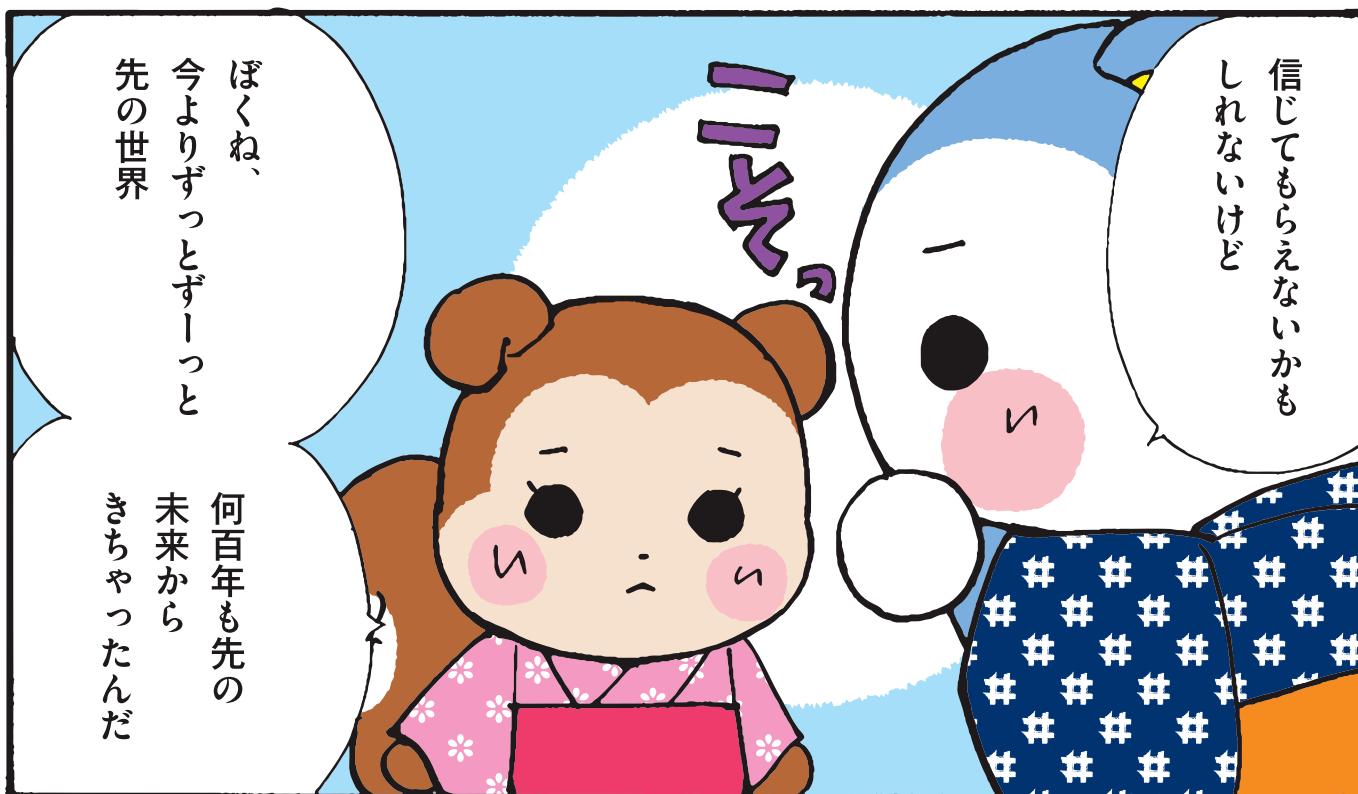
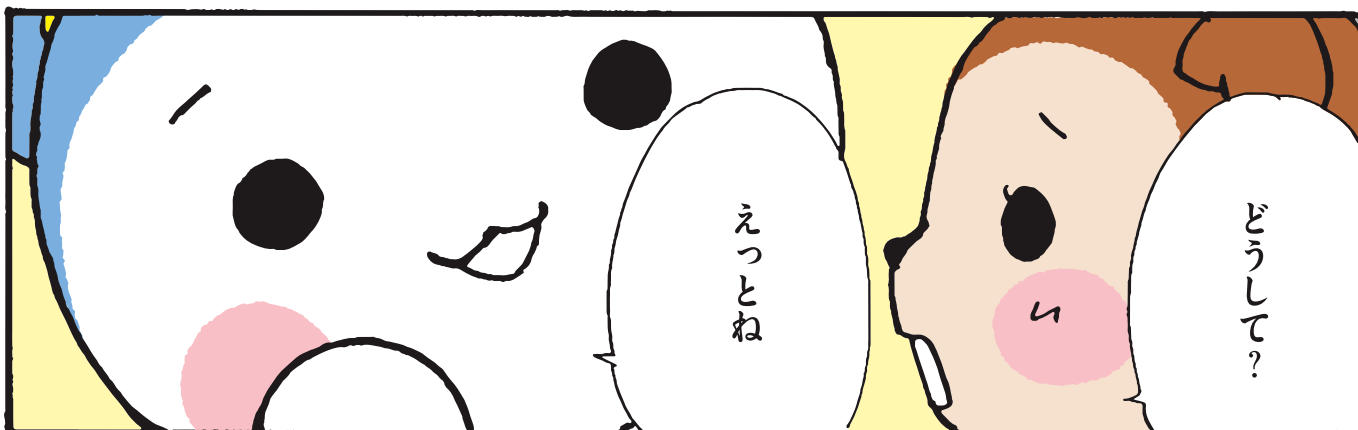
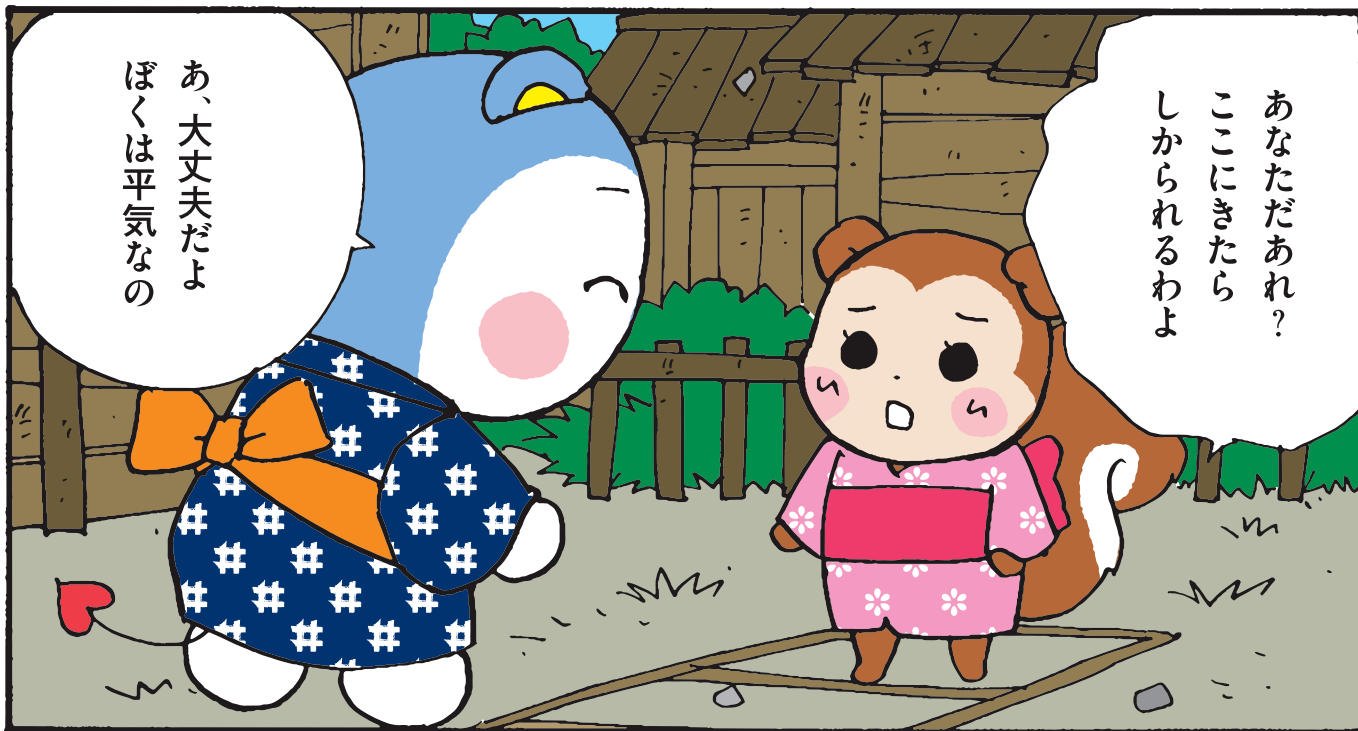
ふくろうじいさん…

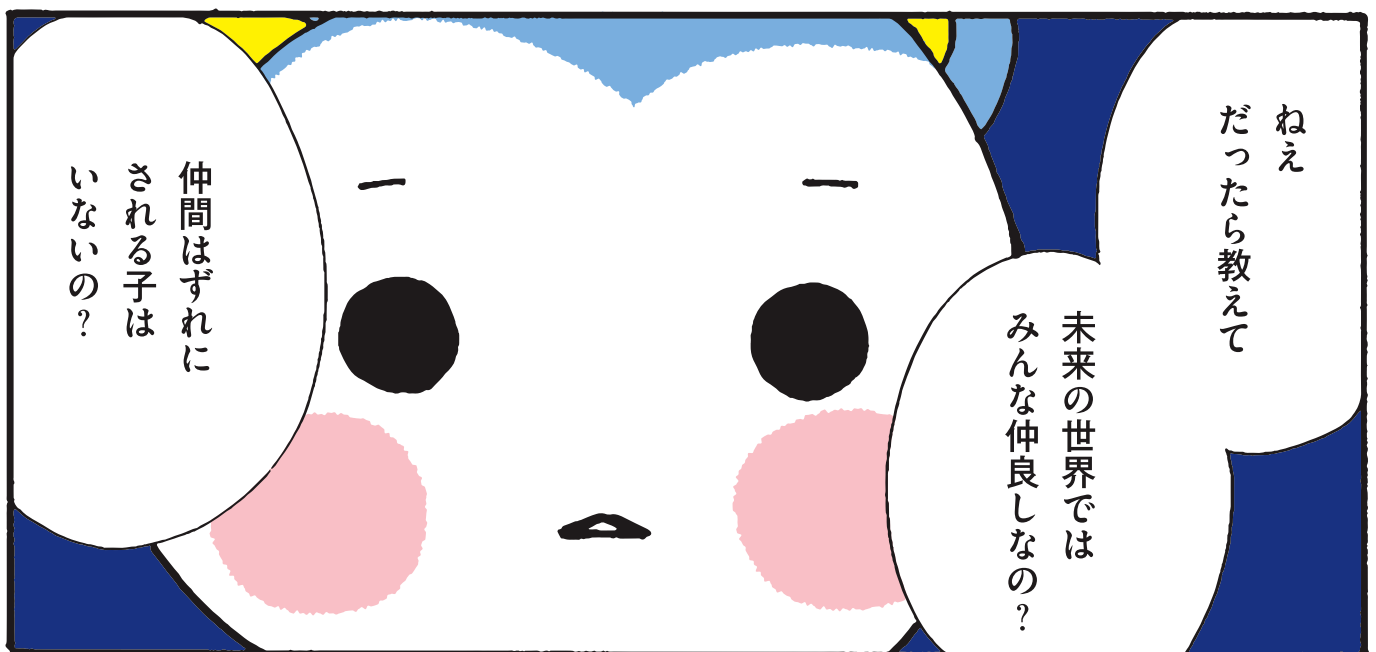
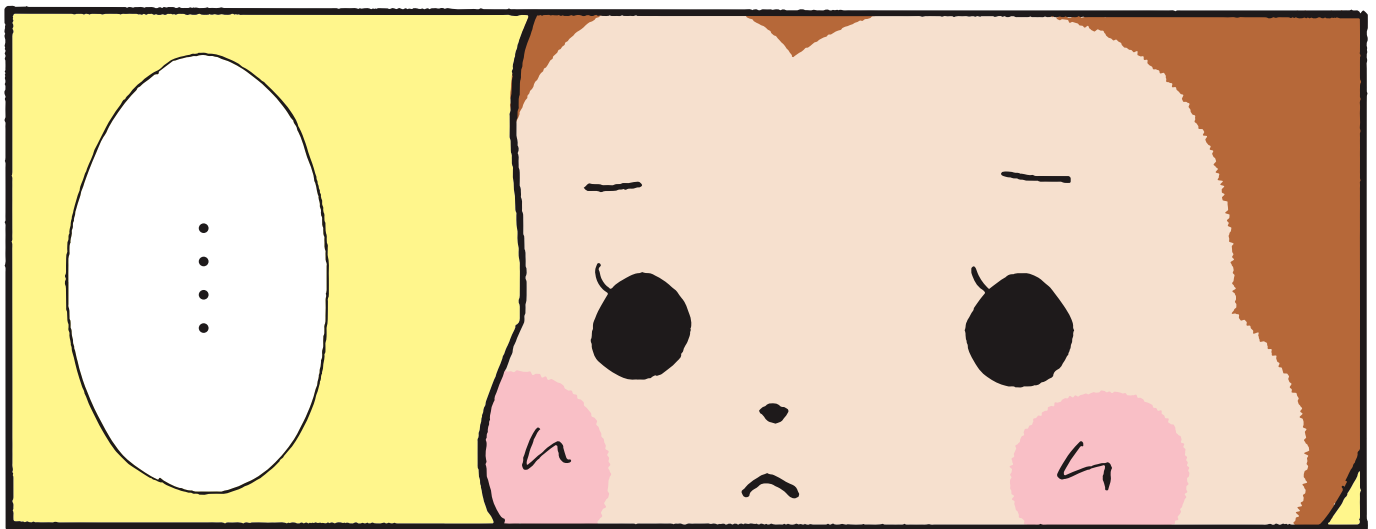
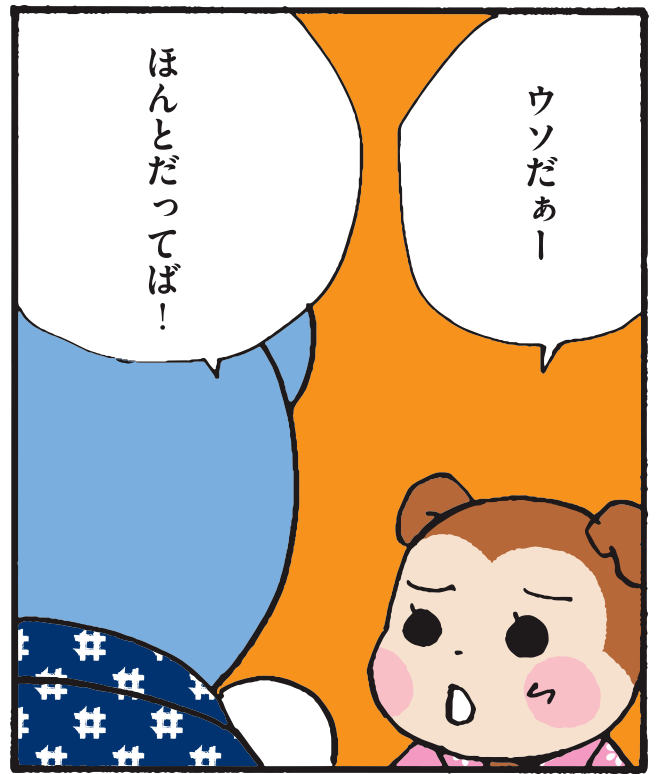
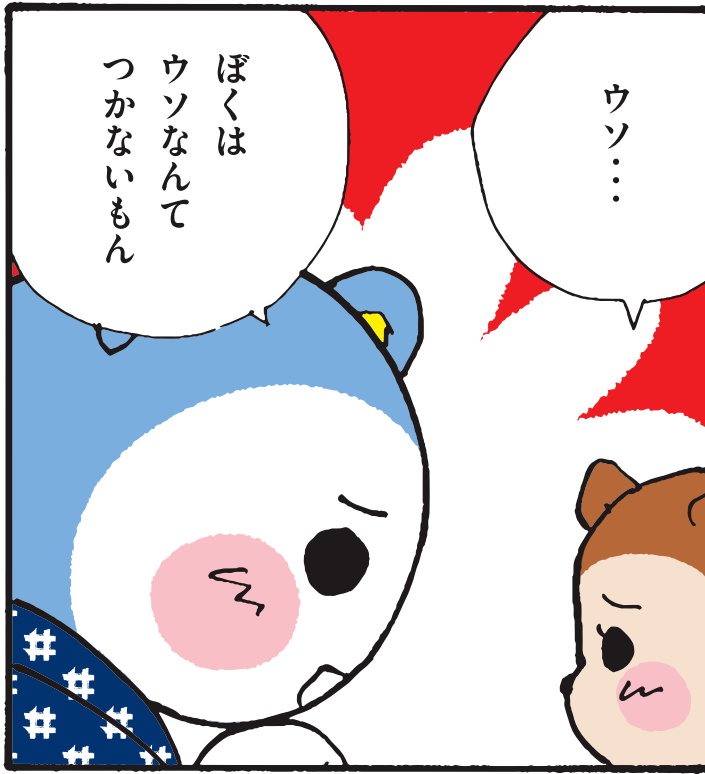


どういう
ことなんじゃー

あっ
ちよ、ちよっと
待ってよ
ふくろうじいさん!!









ごはんよー

そっか…

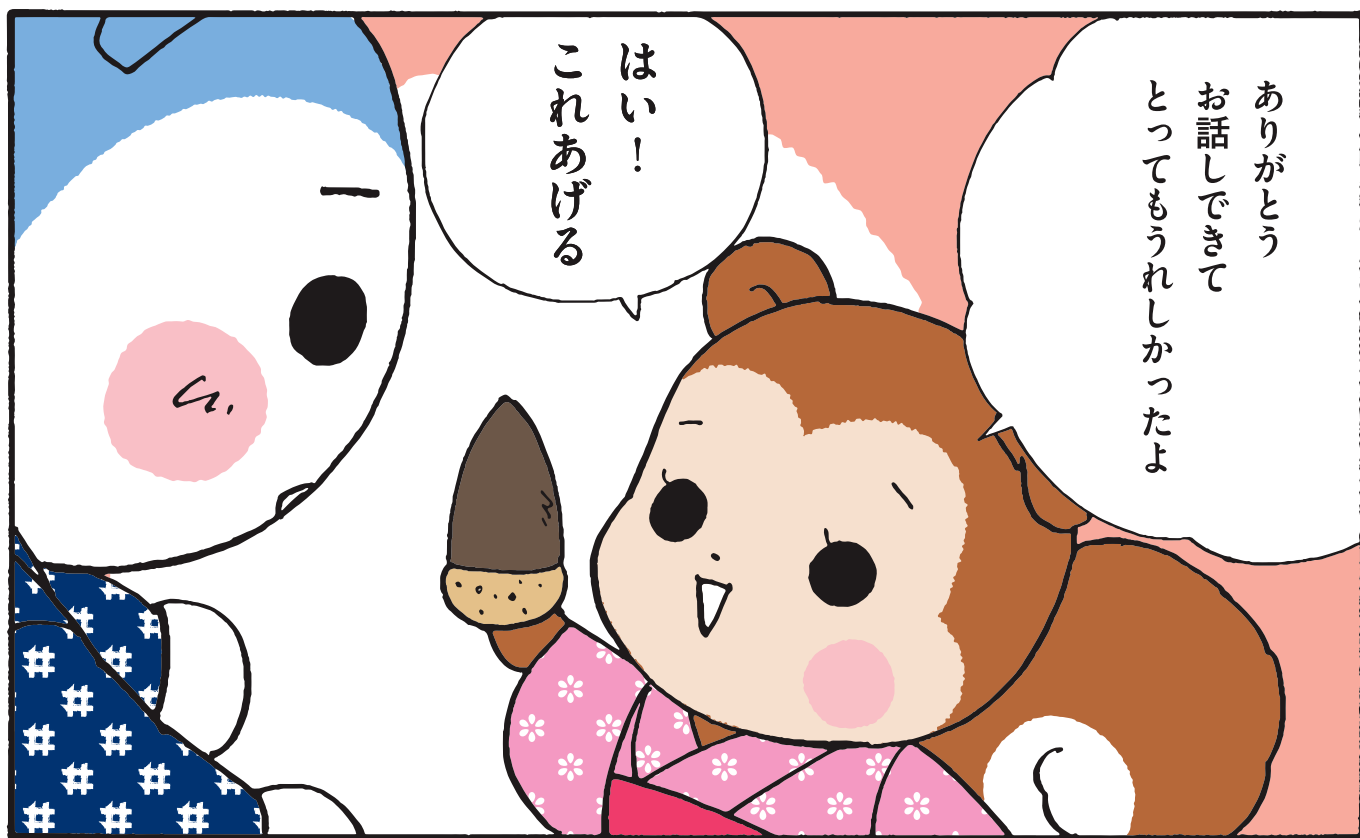


う…ん

えっと…

それは
あの…

…



はい！
これあげる

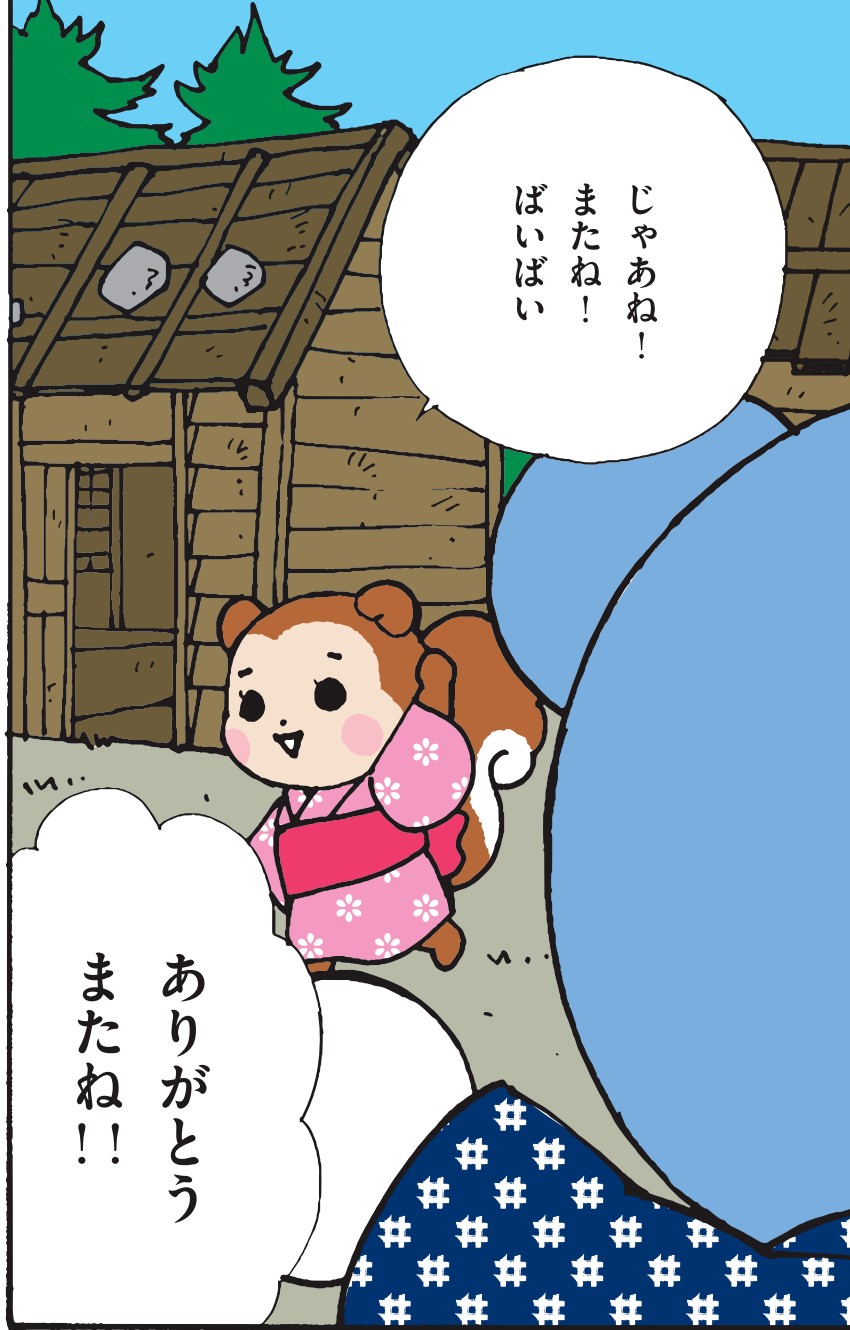
ありがとう
お話しできて
とってもうれしかったよ



うわあ
でっかいドングリ!
おいしそう!

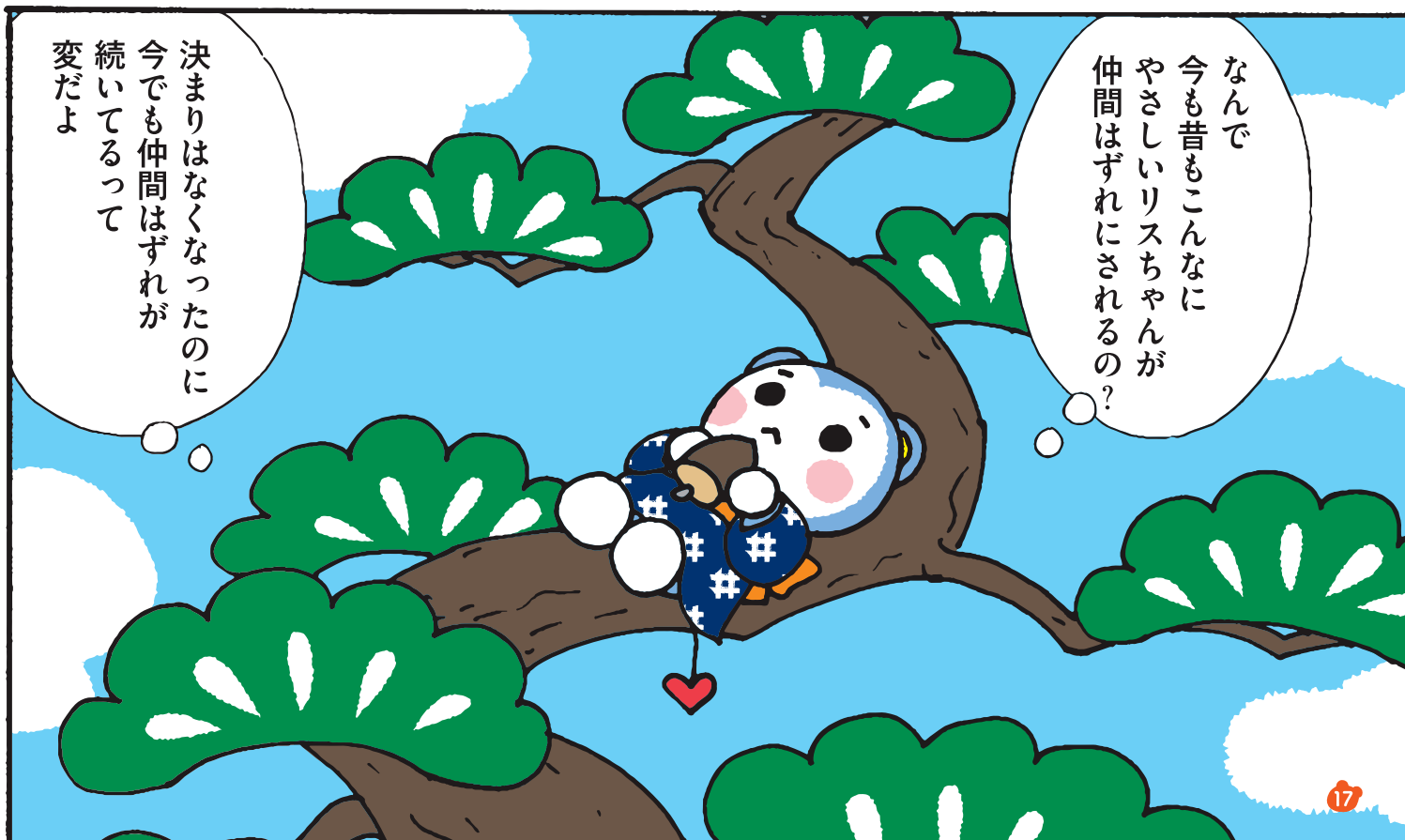
このへんで
とれるのかなあ

こんど
一緒にとりに
いきたいなあ



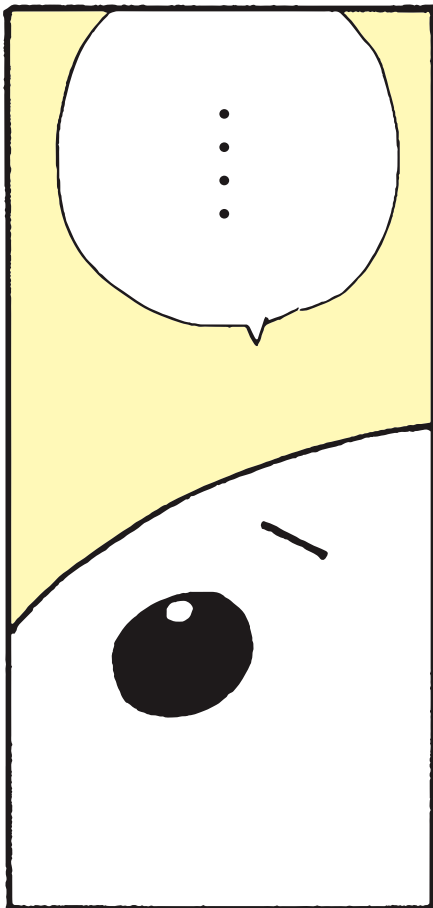
じゃあね!
またね!
ばいばい

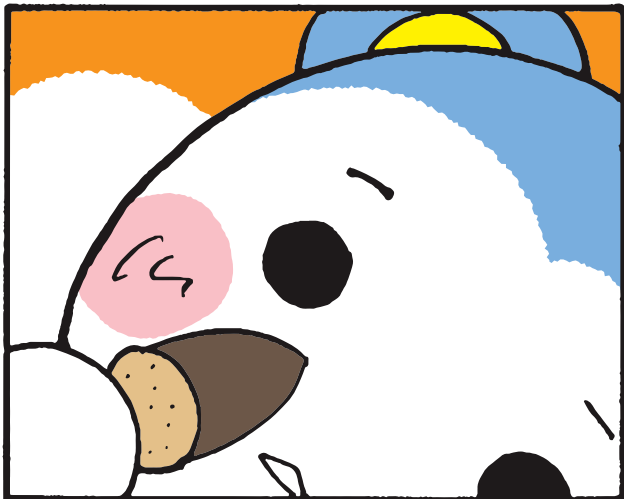
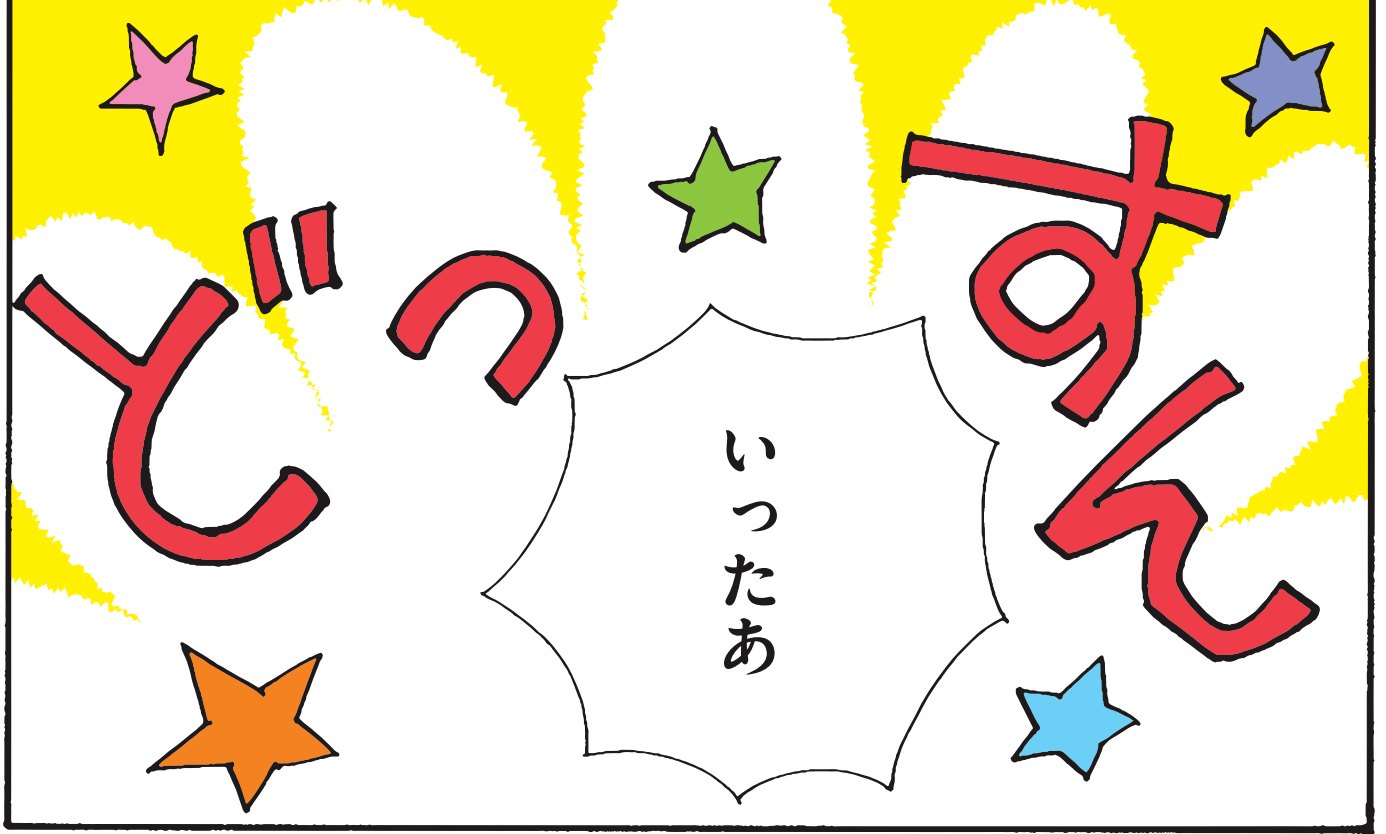
ありがとう
またね!!

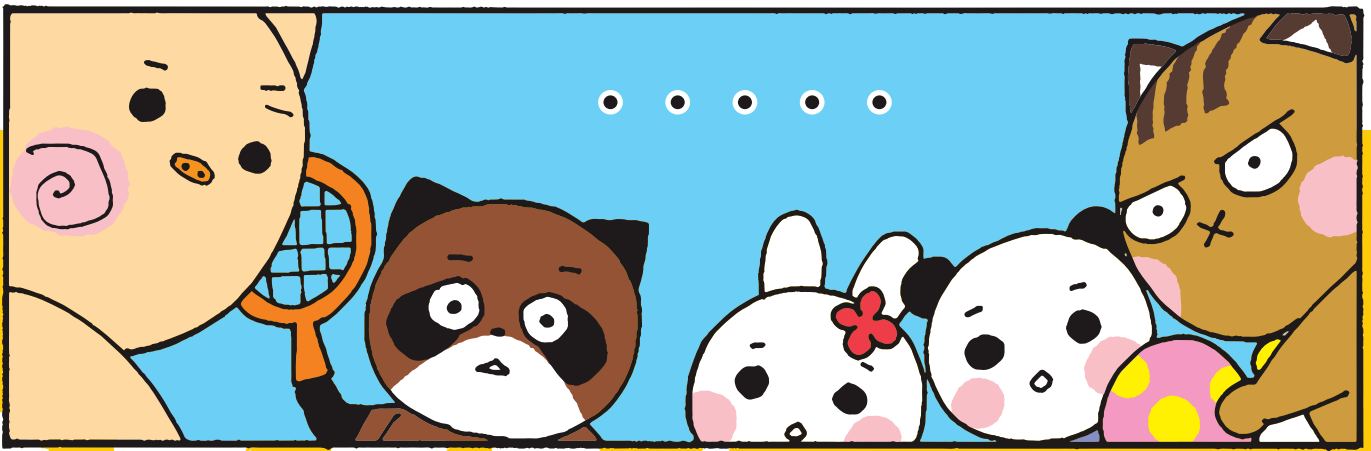


なんで
今も昔もこんなに
やさしいリスちゃんか
仲間はずれにされるの?

決まりはなくなったのに
今でも仲間はずれが
続いているって
変だよ







もうリスちゃんを
仲間はずれには
させないよ！

みんなと一緒に
あそぼうよ！



解説

モモマルくんは夢の中で昔の世界を訪れ、リスちゃんへの“仲間はずれ”を目の当たりにし、図書館の絵本で見たとおり、本当に昔から仲間はずれが存在していることに驚きます。この“仲間はずれ”は、日本社会における「同和問題」と同じ構造をもつ差別です。ここでは、モモマルくんと一緒に「同和問題」について考えてみます。

どうして差別されていたの？



リスちゃん達は、ある“決まり”により、『ここに住み、他のもんとは一切関わってはいけない』(P11)こととなっていました。

江戸時代には、武士、百姓、町人のほかに「えた」「ひにん」とよばれ、住む場所や服装、他の身分との交流に厳しい制限のある身分がありました。

この身分制は、明治4(1872)年の太政官布告(いわゆる解放令)により廃止されるまで制度として続きました。



江戸時代にはそんな制度があったんだ…でも、もう100年以上も前になくなってはるはずなのに…？



どうすれば差別をなくせる？



夢(?)から目覚めたモモマルくんは、リスちゃんへの偏見や差別意識を払拭するため、お友だちのところへ向かいます。同和問題について正しい知識を持っていないと、間違った考えや偏見に出会ったときに、同調し差別する側となってしまうかねません。

第1作【差別における7つの立場】でも、差別に対し“無関心・傍観者の立場”であってはならず、私たちは“差別をなくすために努力する立場”となるべきと解説しています。

「モモマルくんと考えよう!2」で描かれていたように、本当のことを知ろうともせず、うわさ話に振り回されているのは、差別はなくなるどころか助長されることになりかねません。

モモマルくんが“仲間はずれ”の歴史を学んだように、同和問題に関する正しい知識を身につけることが、解決に向けた第一歩となります。



同和問題を正しく理解して、偏見や差別が間違っていることをみんなにも分かってほしいな!



どうして今も差別は続いているの？



“決まり”がなくなった後も、リスちゃんへの仲間はずれが続いている未来に、ふくろうじいさんは驚き、リスちゃんは落胆します。



制度が廃止されて100年以上が経過した今、同和問題という人権課題が存在していることに疑問や違和感を覚えることは不自然ではありません。

社会全体の意識としてつくり、そして当時の民衆に刷り込まれた忌避意識が、制度がなくなった後も人々の心に受け継がれていることが、今日までこの問題を残してきた大きな要因として挙げられます。

昔のことなのに、まだ心の中に差別意識のある人がいるんだね…

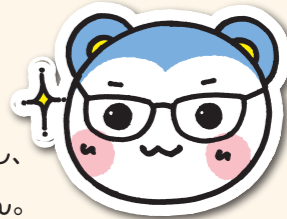


ポイント

「同和問題はなくなった」と考える人もいますが、平成27年度に北九州市が実施した「人権問題に関する意識調査」において、「同和地区の人を嫌がったり、避けたりするような意識はまだあると思うか」との問いに対し、「差別意識を持っている人は(ほとんど)いなくなったと思う」との回答がやや増加しているものの、半数以上が「差別意識を持っている人はまだいると思う」と回答しています。

近年では、インターネット上での同和問題に関する悪質な書き込みや差別落書きなど、その差別はより陰湿化してきています。

このように、一部の人の心の中には同和地区への差別意識が依然として存在し、それによって苦しむ人々が存在しており、決して同和問題はなくなってはいません。





人権研修
入門資料

モモマルくんと 考えよう!

～仲間はずれのない未来のために～

3



北九州市人権問題啓発推進協議会

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11番4号 大手町ビル(ムーブ)8階